

1
教育

プロジェクトに参加した大学院生が 新元素「ニホニウム」の 命名記念式典に出席

3月14日、理化学研究所のグループが発見しアジアで初めて命名権が与えられた新元素「ニホニウム」の命名記念式典が日本学士院で開かれました。埼玉大学もプロジェクトに参加しており、大学院生の山木さやかさん（大学院理工学研究科博士後期課程 3年）がグループに所属していました。

式典ではまず、国際純正・応用化学連合（IUPAC）のタラソバ会長が「113番元素がニホニウムと命名された。」と宣言し、理化学研究所の森田浩介グループディレクターから「長きにわたり声援を送ってくださった国民の皆さまへの感謝を込めて命名した。」と挨拶がありました。皇太子さまもご出席され、研究グループの功績にお祝いの言葉を述べられました。

【研究に参加した山木さんのコメント】

命名権が我々のグループに与えられることになったときは、半信半疑な気持ちと共に、ついにこのときが来たんだという気持ちが込み上げました。理研に昔からいる方々の喜びようは相当なもので、その様子を見てこのプロジェクトに参加できてよかったと感じました。実験中は長時間のシフトなど大変な場面もありましたが、特別な経験ができ、本当に幸せでした。



- 1 プロジェクト関係者による記念撮影
森田浩介グループディレクター（前列中央）の後ろに写る山木さん
- 2 【命名記念式典にて】左から山口貴之准教授、酒井隆太郎さん*、山口宏樹学長、鈴木健理学部長、秋山隆宏さん*、山木さん
*本学在学時プロジェクトに参加
- 3 森田浩介グループディレクター（後列中央右）と当時のスタッフ（後列左：山木さん）
【提供：理化学研究所】

2
教育

学生作成のうちわで外国人観光客おもてなし 世界盆栽大会へ さいたま商工会議所とコラボ

3月14日、経済学部の齋藤ゼミ（齋藤友之教授）に所属する学生が、さいたま商工会議所とのコラボレーションにより、4月にさいたま市で開催された第8回世界盆栽大会に訪日する外国人向けへの情報ツールとして、病院やトイレ、鉄道などの14種のピクトグラム（絵文字）を印刷した「うちわ」を作成し、さいたま商工会議所において完成披露会を行いました。



齋藤友之経済学部教授（中央）、さいたま商工会議所佐伯鋼兵衛会頭（中央左）、さいたま商工会議所街づくり・観光委員会井原貴委員長（中央右）

このコラボレーションは、さいたま市が「さいたま市のおもてなしスタイル」をテーマにして平成27年度に主催した「第5回学生政策提案フォーラム in さいたま」において齋藤ゼミの学生が提案した「うちわによるオリンピック



作成したうちわを手に笑顔を見せる学生らの暑さ対策」が最優秀賞を受賞したことを契機に、さいたま市がさいたま商工会議所の街づくり・観光委員会にこの提案をもちかけたことにより始まりました。

うちわのコンセプトは、「コミュニケーション&情報提供!」。表面には教育学部2年中村ジュリアさんが描いた世界盆栽大会をイメージするかわいらしいイラストが描かれ、裏面にはピクトグラムに加えてさいたま商工会議所が運営する情報サイト「マイタウンさいたま」のQRコードを掲載し多言語に対応した飲食店舗情報を、また、指さしの図柄を入れて外国人の道案内をピクトグラムで教えることでコミュニケーションすることを促しています。うちわは世界盆栽大会で配布することやその利用によって得たさまざまな意見を取り入れて改良して、2020年の東京オリンピック・パラリンピック版の配布を目指すとのことです。



3 教育 大学院生が受賞 「日本遺伝学会 Best Paper Award」

大学院理工学研究科（分子生物学コース）博士前期課程 2 年の金澤美秋さん（高橋康弘教授指導）が『日本遺伝学会第 88 回大会 Best Paper Award』に輝きました。この賞は、優れた研究を褒賞することで意欲あふれる研究を奨励して、遺伝学会の明日を築く人々を鼓舞し、遺伝学の発展に資することを目的に設けられ、シニアの研究者を含めて、大会における優れた講演に対して贈られています。大会では、160 講演中 11 講演が選出された中で、金澤さんが行った口頭発表「鉄硫黄クラスター生成系の必須成分の機能をバイパスするサプレッサー変異の遺伝学的解析」が優れた講演であると評価され、2016 年 11 月 30 日に授与されました。



4 教育 学生の政策提言を事業化 消費者教育講座を開催

1 月 17 日、セブン&アイ・ホールディングスによる消費者教育講座「イトーヨーカドーの果敢な挑戦～本業を通じた『社会価値』と『企業価値』の追求～」(講師:イトーヨーカ堂 CSR推進部兼お客様相談部総括マネージャー 新立利也氏) が開催されました。本講座は、2013 年度に経済学部江口幸治ゼミによる埼玉県知事に対する政策提言（若者が参加したいと思える、企業と連携した消費者教育の実施）を事業化した取り組みで、今年で 4 回目となります。当日は大学生を中心に約 50 名が参加し、



学生からは「CSV（共通価値創造）の考え方を取り入れたきっかけは何か。」など、多くの質問がなされ、活発な講座となりました。

5 教育 学生らが JR 東日本にまちづくりを提案 「課題解決型インターンシップ」最終講義

2 月 3 日、本学と東日本旅客鉄道株式会社大宮支社（JR 東日本大宮支社）が連携し、昨年 9 月から行っている「課題解決型インターンシッププログラム」（全 15 回）の最終講義が、JR 東日本大宮支社において開催され、学生たちがまちづくりの具体案を発表しました。3 つのチームが埼京線の与野本町駅を中心に、彩の国さいたま芸術劇場とも連携したまちづくりの案をそれぞれ提案。ストリート生け花や音楽演奏などで劇場までの通りをアートのストリート化するアイデアや、バラ祭りや芸術劇場とのコラボレーションなどで芸術に触れ合うまちを目指すといった案が提案されました。



6 教育 留学生が日本語スピーチ大会で 「さいたま市議会議員賞」受賞

2 月 4 日、さいたま市などが主催する第 15 回外国人による日本語スピーチ大会「さいたま市に来て、見て、感じて」が「出逢い・発見」をテーマに開催されました。厳しい書類選考を通過した 10 名による大会で、メキシコ自治大学より短期留学プログラムで本学に留学中のアンヘリカ・ラミスさん（教育学部 宇田和子教授指導）が、「さいたま市議会議員賞」を受賞しました。題目は「国際化の重要性」で、人や物の国際交流促進が世界中の生活を豊かにするというもの。ラミスさんは、同市と



受賞式の様子（前列右から 4 人目：アンヘリカ・ラミスさん）

メキシコ・シティを比較し、それぞれの市や国が良い点を学びあうことなどの重要性を主張しました。

7 教育 大学院生が最優秀賞を受賞 全国共済月間懸賞論文・ショートレポート

大学院理工学研究科（機能材料工学コース）博士前期課程 2 年の宇高光さんが、「2016 全国共済月間懸賞論文・ショートレポート」（全国大学生協共済生活協同組合連合会主催）において最優秀賞（会長賞）を受賞し、2 月 6 日に受賞式が挙行されました。今回は、学生生活に潜む



リスクへの備えがテーマで、宇高光さんが、少子高齢化や晩婚化問題を背景に、自分自身の経験に基づいた新たな共済（保険）制度を提案した小論文「帰省支援制度導入の提案—迫りくるリスクの見える化と備え—」が最優秀賞（会長賞）に輝きました。宇高光さん（前列左）と鎌田憲彦教授（指導教員、同右）

8 教育 「リーダーシップトレーニング」 を開催

2 月 7 日及び 2 月 9 日、各サークルのリーダーを対象とした「リーダーシップトレーニング」研修を開催しました。この研修は、リーダーとしての資質向上を図ることを目的として年 2 回実施されています。今回、キャリアコンサルタントで本学卒業生の岡本行正氏を講師に招き、リーダーシップとは何か、チームワークに何が大切なのかをワークショップなどを通じて学びました。学生にとって、自分らしい強みに気づき、豊かな人間関係をつくることに役立てる機会となりました。3 時間にも及ぶ研修でしたが、2 日間で 168 名が参加し、最後まで熱心に耳を傾けていました。



9 教育 附属特別支援学校の生徒らが制作 映画「ポップコーンカフェ」を上映

2 月 15 日、大宮イオンシネマで、附属特別支援学校の中学部 2 年生 6 人が撮影、出演した映画「ポップコーンカフェ」が上映されました。同校中学部の授業で「職業についての知識や働く活動を通じた達成感や成就感を得ることで、働く喜びを知る」ことを学ぶために、担当教員の村瀬先生と 6 人が相談して好きな映画を制作することにしました。作品は、生徒らが埼玉大学の学園祭や特別支援学校で実際に開いたポップコーンカフェが舞台で、教員指導の下、撮影と演技も生徒自らが行いました。上映が終わると、満席の観客から拍手がわき起こるなか、生徒たちは舞台挨拶を行い、大きな達成感を得ることができました。

上映後、舞台上で挨拶する生徒



10 教育 平成 28 年度 第 2 回学生表彰式を開催

3月8日、平成28年度第2回の学生表彰式を開催しました。この表彰は、学術研究等の成果が優れている学生、課外活動の成果が特に顕著である学生、社会活動において優れた評価を受けた学生、その他表彰に値すると認められた学生を表彰する制度です。受賞者（個人表彰26名、団体表彰1団体）には学長から表彰状が授与され、学生後援会より記念品が贈呈されました。



12 研究 「理工学研究科戦略的研究部門 公開シンポジウム」を開催

1月30日、大学院理工学研究科および研究機構の主催により、「理工学研究科戦略的研究部門 公開シンポジウム」を開催しました。本学は、平成25年度に採択された文部科学省「国立大学改革強化推進事業」の一環として、研究力強化を目的に、2014年4月、大学院理工学研究科に戦略的研究部門を設置しました。このシンポジウムは、同研究部門の取り組みとこれまでの研究成果を学内外に報告す



るために実施され、約140名が参加しました。シンポジウムでは、山口宏樹学長の挨拶の後、戦略的研究部門を構成する各研究領域が、口頭発表とポスター発表による研究報告を行いました。

14 地域 埼玉県高等学校理科教育 研究発表会が開催されました

2月18日、平成28年度埼玉県高等学校理科教育研究発表会（主催：埼玉県高等学校理化研究会）が、本学を会場に開催されました。埼玉県内の高校生が互いの研究成果を発表し合い、本学の教員、大学院生が研究者の立場として指導、講評を行いました。本年度は物理（ポスターセッション18、口頭発表25）、化学（ポスターセッション36、口頭発表14）、生物（ポスターセッション36、口頭発表30）、地学（ポスターセッション18、口頭発表14）が披露され、互いの研究内容について活発な意見交換がされました。休日にも関わらず約500人の高校生、保護者、及び教職員が参加しました。



11 教育 埼玉県課題解決型インターンシップ事業 成果報告会を開催

3月10日、「埼玉県課題解決型インターンシップ事業」の成果報告会を開催しました。この取り組みは、本学が平成28年度より埼玉県から受託し、学生が3ヶ月から6ヶ月間就業体験し、企業が抱える課題解決を目指すとともに、企業に対する理解を深めることを目的としています。初めての実施となる今回は、県内企業6社で実習した8名の学生が、それぞれの実習体験を発表しました。最後に、上條正仁埼玉県経営者協会会長から「インターンシップ参加により、社会人



として将来活躍する上で、自ら考え行動する重要性は十分に理解できたと思います。この事業の今後の発展、展開に大いに期待しています。」と総評が述べられました。

カフェの新メニューを広く知らせる看板を説明する学生

13 研究 報道各社と 「埼玉学術懇話会」を開催

3月16日、本学は埼玉県政記者クラブ加盟の報道各社支局長と「埼玉学術懇話会」を開催しました。この会合は平成18年度より毎年開催されており、大学の動向や研究成果などを紹介するとともに、情報交換を行うもので、当日は約40名が参加しました。第一部では、山口宏樹学長が教育、研究、社会連携・国際化における現在の取り組みを紹介し、さらに、4月に大学院理工学研究科戦略的研究部門に新設する「X線・光赤外線宇宙物理研究領域」などについて説明しました。このほか、健康・医療分野の取り組みなどを例に挙げ、埼玉県との連携による研究力の推進・人材育成の取り組みを紹介しました。



記者発表する山口学長

15 地域 教育実践総合センター開設 30 周年・ 教職大学院開設記念教育講演会を開催

2月24日、教育学部附属教育実践総合センター（前身：同学部附属教育実践研究指導センター）が開設して30年、そして平成28年度の教職大学院開設を記念し、國學院大學人間開発学部教授の杉田洋氏を講師として迎え、「アクティブ・ラーナーの育成と日本人間教育—新学習指導



講演する杉田洋氏（國學院大學人間開発学部 教授）

要領の実現に向けて」と題した教育講演会を開催しました。当日は、県内の学校現場の先生を中心に、教師を目指す学生など約100名が参加し、学習指導要領改訂に係る関心の高さがうかがわれる会となりました。

16 地域 **新制中規模国立大学間
包括連携協定を締結**

3月15日、学生会館において、新制中規模国立大学間包括連携協定調印式を行いました。本協定は、同規模の新制国立大学である岩手大学、茨城大学、宇都宮大学、東京海洋大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、静岡大学、奈良女子大学、和歌山大学及び埼玉大学の10大学がコンソーシアムを設立し、大学間の連携強化を更に推進することを目的としています。これまで以上に各大学で抱える課題を共有し、様々なデータを相互比較・検討することにより、自大学の強みや弱みを改めて把握し、より一層大学としての機能を強めていくこととしました。



18 国際 **モロッコ教育関係公式代表団が
山口学長を訪問**

1月31日、ムハンマド5世大学の学長ら4名のモロッコ教育関係公式代表団が、山口宏樹学長を敬訪問しました。一行は、山口学長(中央)、Amzaziムハンマド5世大学学長(同右)長、中林副学長(国際担当)、市橋教養学部長、柳澤経済学部長、鈴木理学部長、堀尾理工学研究科長と懇談し、今後の学術及び学生交流の可能性について、意見交換を行いました。



20 国際 **埼玉大学グローバル
人材育成フォーラムを開催**

3月2日、国際本部国際企画室主催のグローバル人材育成フォーラムを開催しました。第1部では、はじめに野中国際企画室長が「埼玉大学のグローバル事業の現状と課題」、続いて中本国際企画室員が「キャンパスのグローバル化へ向けて」と題した報告を行いました。続く第2部では、教養学部のグローバル人材育成プログラム、特別教育プログラム Global Youth(GY)、経済学部のグローバル・タレント・プログラムおよび外務省が推進する KAKEHASHI Project (対日理解促進交流プログラム) での経験等を5名の学生がそれぞれ報告し、本学のグローバル化推進に向けた取り組みをアピールする機会となりました。



発表する KAKEHASHI Project 参加学生

17 国際 **留学生が
着物着付け体験会に参加**

1月8日、今年で7回目となるさいたま観光国際協会主催の着物着付け体験会に本学留学生5名が参加しました。この体験会は振り袖や袴の着付け、髪結いなど本格的な和装と初詣体験ができることから毎年留学生に人気のあるイベントです。大宮・氷川の杜文化館にて、着物をまとった留学生は、茶道、風呂敷包み、初詣などの日本文化を体験しました。参加者の男子学生は袴を、女子学生は着物の着付けに合わせた日本らしい髪結いを髪飾りやかんざしなどで華やかに彩ってもらい、その美しさに感動していました。



19 国際 **タイ・プラチャーティポック王立学院
向けに研修を実施**

2月7日、本学はタイ・プラチャーティポック王立学院(KPI・タイ国民議会附属の研究教育機関)からの要請を受け、KPI訪問団32名を受け入れました。今回の訪問団はタイの政府部門及び民間企業の幹部から構成されており、本学では交通政策をテーマとした研修を行いました。研修では、大学院理工学研究科久保田尚教授、小嶋文准教授及び博士後期課程2年 Mr. Pornraht Pongprasert がそれぞれ講演し、参加者と交通事故を減らすための日本の各種取り組みや道路交通法の内容などについて、活発な意見交換を行いました。



埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は平成25年11月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかきご支援をいただいております。

昨年末には新たに、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行うことを目的とした、特定基金「埼玉大学修学サポート基金」を設立し、右図のとおり構成となっております。

ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。また、不要となった本やDVDをお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただける古本募金「きしゃぼん」を導入しております。

詳細は下記ホームページをご覧くださいませようお願いいたします。今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

埼玉大学基金室(広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/
古本募金「きしゃぼん」についてはホームページの「お申込み方法」(http://www.saitama-u.ac.jp/funds/pay/)から「3.古本募金」をご参照ください。

目的1	特定重点事業の推進 埼玉大学インターナショナルレジデンス(国際学生寮)新設事業	埼玉大学創立70周年(平成31年度)記念事業
目的2	埼玉大学の機能強化等将来構想実現に向けた中・長期戦略事業 教育・研究・学生支援、国際交流支援、社会連携支援	
特定基金	埼玉大学修学サポート基金 経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援	

◆埼玉大学基金のご報告

平成29年3月末の状況 **352,318,441円**
うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 **71,225円**

